

ピーマンの主な病害虫防除対策について

病害虫発生予報11月号（病害虫防除所）によると、促成ピーマンでコナジラミ類の発生は平年より多く、アザミウマ類の発生はやや多い～多いと予測されています。ピーマンでは生育が進むと枝葉が密生し、病害虫が多発生すると防除が困難になるので、少発生うちに防除を徹底して下さい。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5

<ピーマンの主な病害虫>
 病害:黄化えそ病、モザイク病、うどんこ病、斑点病、灰色かび病、疫病など、
 害虫:アザミウマ類、コナジラミ類、アブラムシ類、タバコガ類、ハダニ類、センチュウ類など
 アザミウマ類は黄化えそ病を、アブラムシ類は各種モザイク病を媒介しますので注意が必要です



写真6

写真1：黄化えそ病（頂部の萎縮症状）
 写真2：うどんこ病（葉裏の症状）
 写真3：斑点病（葉の症状）
 写真4：オンシツコナジラミ
 写真5：ミナミキイロアザミウマによる被害果
 写真6：ミナミキイロアザミウマ幼虫
 （写真1,3,5 病害虫防除所）

防除のポイント

適正な整枝剪定

ハウス内外の除草

ハウスの開口部に防虫ネットを設置

ハウス内に黄色や青色の粘着シートを設置

分類の異なる薬剤でローテーション散布
散布は株全体に丁寧に散布

天敵昆虫を導入している圃場は、薬剤の影響について、関係機関から指導を受ける

適度な温湿度管理

被害葉は圃場外に持ち出し適切に処分

うどんこ病・斑点病

曇雨天が続き施設内が多湿や日照不足になる時期には、薬剤の予防散布に努めます。

注1) 分類欄には、FRACコードを記載しました（コードが2つは混合剤）。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

※表1の他に、うどんこ病防除には硫黄粒剤のくん煙処理があり、この場合は専用の電気加熱式くん煙器を利用してください。

表1 ピーマンうどんこ病、斑点病の主な防除薬剤

（令和6年11月13日現在）

薬剤名	うどんこ病	斑点病	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
シグナムWDG	○	○	2,000倍	収穫前日まで/2回以内	7と11
ラリー水和剤	○	○	4,000~6,000倍	収穫前日まで/4回以内	3
カスミンポルドー	○	○	1,000倍	収穫前日まで/5回以内	24とM01
ダコニール1000	○	○	1,000倍	収穫前日まで/3回以内	M05
パンチョTF顆粒水和剤	○		2,000倍	収穫前日まで/2回以内	3とU06
パレード20フロアブル	○		2,000~4,000倍	収穫前日まで/3回以内	7
モレスタン水和剤	○		2,000~3,000倍	収穫前日まで/3回以内	M10

表2 ピーマンのアザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類、アブラムシ類の主な防除薬剤（令和6年11月13日現在）

薬剤名	対象害虫				希釈倍率	使用時期/使用回数	分類
	アザミウマ類	コナジラミ類	ハダニ類	アブラムシ類			
ベストガード粒剤	○ _{ミナ}	○		○	1~2g/株※	定植時/1回	4A
モベントフロアブル	○	○	○	○	2,000倍	収穫前日まで/3回以内	23
アグリメック	○	○	○		500~1,000倍	収穫前日まで/3回以内	6
グレーシア乳剤	○	○	○		2,000倍	収穫前日まで/2回以内	30
コテツフロアブル	○ _{ミカ、ミナ}		○		2,000倍	収穫前日まで/2回以内	13
ディアナSC	○	○			2,500~5,000倍	収穫前日まで/2回以内	5
モスピラン顆粒水溶剤	○	○		○	4,000倍	収穫前日まで/2回以内	4A
コロマイト乳剤		○	○		1,000倍	収穫前日まで/2回以内	6
コルト顆粒水和剤		○		○	4,000倍	収穫前日まで/2回以内	9B
カネマイトフロアブル			○		1,000倍	収穫前日まで/1回	20B
マイトコーネフロアブル			○		1,000倍	収穫前日まで/1回	20D

アザミウマ類・コナジラミ類・ハダニ類・アブラムシ類

注1) ※植穴処理土壌混和
 注2) 対象害虫アザミウマ類の欄で、ミカンはミカンキイロアザミウマ、ミナミはミナミキイロアザミウマを略しました。
 注3) 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

■ 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

■ 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。